

## 大正製薬リポビタン第47回全国選抜高校テニス大会 選考発表

本日2025年2月1日（土）大正製薬リポビタン第47回全国選抜高校テニス大会の選考委員会が、博多の森テニス競技場で開催され、団体戦選考委員会枠男女各2校を含む、全出場校・出場選手が発表されました。

団体戦出場校は下記となります。

<男子> 団体戦 選考委員会枠

中国地区 <広島学院高等学校>

（選考理由）

県内有数の進学校で、「全員で強くなる」というモットーのもと、週2回18時までと、部活動の時間制限されている中で、コート外での自主練習にも力を入れるなど、工夫しながら実力を高め、技術向上だけでなく、チームとしての団結力を上げてきた。

さらに、被災地支援などのボランティア活動にも積極的に取り組み、社会貢献にも力を入れ、広島インターハイに向けてSCUの練習にも励み、スポーツを通じて成長を追求する姿勢や、進学校でありながら選抜中国地区大会5位に食い込む健闘を見せ、試合に臨む姿勢も評価。

今年は、広島原爆投下から80年という節目の年にあたり、そのような歴史的な意義を持つ今大会において、広島学院高等学校が初出場を果たすことは大変意義深いものと考えての選考となった。今回初出場となる

東北地区 <青森県立青森工業高等学校>

（選考理由）

創立111年の歴史と伝統を誇る学校で、同好会のスタートから45年の時を経て、県大会初優勝という快挙を成し遂げた。

選手のほとんどは高校からテニスを始めた選手で、ジュニア経験者がいない中、練習メニューを自分たちで考え主体的に取り組み、冬季は体育館での練習を行い、コートはソフトテニス部と共有するなど、

恵まれた環境とは言えない状況の中でも、週2回の練習を最大限に活かして技術向上に努め、地区大会初出場を果たし、東北大会では5位入賞という素晴らしい結果を残した。

さらに、テニスの実力向上だけでなく、高齢者支援や海的环境整備といった地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる点や、テニス大会の補助活動にも率先して参加し、競技に対する真摯な姿勢とスポーツマンシップを大切にしている点などが評価され選考された。今回初出場となる。

<女子> 団体戦 選考委員会枠

中国地区 <鳥取県立鳥取東高等学校>

(選考理由)

恵まれた練習環境ではない中で、学業・部活動・地域貢献に全力で取り組み、進学に向けて学業にも取り組みながら、県新人戦では準優勝を果たした。競技面でも着実な成果を上げ、高校からテニスを始めた選手が多い中、自分たちで練習メニューを考え、限られた時間と環境の中で最大限の努力を重ねた。

また地域貢献活動にも積極的に取り組んでおり、週2回、地元のテニスクラブで小学生と一緒に練習しながら、テニスの普及活動を行い、鳥取大学の学生とも練習を重ねることで、技術の向上を図ると同時に、地域のテニス人口の減少という課題にも向き合い、県全体の競技レベル向上に貢献している。

現在、鳥取県のテニス競技人口は大幅に減少しており、「挑戦無くして前進なし」という強い信念のもと、環境を言い訳にせず、困難な状況の中でも成長を続け、鳥取県全体テニス普及にも貢献してきた姿勢が評価され選考された。今回初出場となる

近畿地区 <近畿大学附属和歌山高等学校>

(選考理由)

部員全員が和歌山県出身という地域に根ざしたチームで、部員の半数が難関大学に進学する「文武両道」を実践しながら競技に励み、日々練習を重ねてきた。競技力向上だけでなく、テニスの普及活動にも積極的に取り組み、毎年200名以上が参加する「Nテニスツアートーナメント」を年に2回開催し、さらに地方特有の経験値不足を補うため、ジュニア選手を招待する合同練習を年間15回開催し、若い世代の育成に貢献している。

また、和歌山県全体のテニス競技人口減少の中、遠征を通じて他校と積極的に交流し、技術向上と競技の普及に力を入れている。その結果、県内でも先進的なテニス活動を行う学校として評価されており、その貢献度の高さが今回の選出の理由の一つとなった。

(選手宣誓)

男子：青森県立青森工業高等学校（初出場）青森県

女子：仁愛女子高等学校（45年連続45回目）福井県

大正製薬リポビタン第47回全国選抜高校テニス大会は博多の森テニス競技場（団体戦・個人戦）と春日公園テニスコート（個人戦1R～3R）で開催されます。

3月20日開会式

団体戦 3月21日（金）～25日（火）

個人戦 3月22日（土）～26日（水）

本年も宜しくお願い致します。